

第1・2学年 生活科 学習指導案

福岡市立 小呂小学校
教諭 松田 博光

1. 小単元名「わくわく あきの おろのしま ～おいもパーティーをひらこう！～」

2. 単元の目標

- 秋の自然と関わる活動を通して、遊びなどに使うものを工夫して作る。
(知識及び技能の)
- 身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付く。
(思考・判断・表現)
- 遊びや食の楽しさに気付き、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしようとする
ことができるようにする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領解説編の9つの内容のうち、以下の2つの内容を受けて設定した。

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

ここでは、「秋の芋ほり集会」をきっかけに、サツマイモのおいしい食べ方を考えて、「おいもパーティー」を開く。パーティーをもっと楽しくするために、どんぐりや松ぼっくりを使ったおもちゃを作ったり、サツマイモで芋版を作って遊んだりすることを通して、春や夏の様子と比べながら変化を感じ取らせ、自然の美しさ、面白さなどの自然の素晴らしさに気付くことができることをねらいとしている。

またSDG'sの目標12-5「2030年までに、ごみが出ることを防いだり、減らしたり、リサイクル・リユースをして、ごみの発生する量を大きく減らす」の観点から、本来なら捨てられてしまう芋づるを使ったリース作りを楽しむ活動を行う。

自然を利用した学習は、子ども達にとって楽しく、深く学習対象に関わっていくことができる活動になっていくであろう。そんな自然を生かした活動の中で、自然を大切にすることを育て、身近な自然と関わり合い、個々の発想や工夫が生かしながら、時には考えを交流したりすることを通して遊びや生活を豊かにしていくことにつながるという点で、価値がある教材であると考えられる。

(2) 児童観

小呂島は自然が豊かである。そのため子ども達にとって、自然とは当たり前存在するものであり、ことさら意識する機会はほとんどない。しかし実際は、自生する桑の実を食べたり、花を摘んで遊んだり、季節によって食卓に上がる魚の種類が違うのを目の当たりにしたりと、四季の変化や美しさ、楽しさといったものにたくさん触れてきている。

そんな本学級の児童は、1学期に、生活科「はなを さかせよう」、「ぐんぐんそだて！わたしの やさい」における育てている朝顔の観察・野菜の収穫などの活動を通して、植物が変化し成長していることに気付き、自然への親しみを深めている。同じく生活科「校庭いで春をさがそう」(下)・「なつが やってきた」(上)では、校庭の自然観察、虫取り、梅雨時期の水たまり遊びなどを通して、季節によって自然は変化し、それぞれの季節に応じた楽しさがあることに気付きはじめていく。

(3) 指導観

指導にあたっては、秋の実りへの感謝の気持ちを持たせるために、サツマイモを中心とした秋の実りに実際に触れたり、「おいもパーティー」をしたりするという活動を中心に単元を構成する。

まず、みつめる段階では、自分たちで植えたサツマイモを収穫する「芋ほり集会」を行う。同時に、校庭や裏庭にあるソテツの実、ガマズミ、ススキ、紅葉した落ち葉、松ぼっくりなど、身近にある秋の様子に着目させる。休み時間には子ども達と一緒に木の実拾いなどをするなどの体験活動を通して、秋の実りに気付かせる。これらの秋の実りを使って何かをしたいという意欲を持たせ、学習問題を設定する。

調べる段階では、多様な人々と関わりながら学習を進める。まずは、サツマイモについて詳しく知るために、「おいもめいじん①」として養護教諭よりサツマイモの栄養について、次に「おいもめいじん②」として本校給食調理員にサツマイモを使った給食（さつまいものクリームシチュー）の調理の様子を見学させてもらったり、給食で登場するサツマイモのメニューについて教えてもらったりする。サツマイモについて詳しくなった子ども達に、「おいもめいじん③」として島の料理名人と出合わせ、まぼろしのお菓子「げんし（ち？）もち」を紹介してもらい、一緒に作ってもらう。「おいも名人」に教えてもらう内容や対象となる人選については、発達段階を踏まえ教師が決める。同時に、「おいもパーティー」を盛り上げるためのプログラムや、誰を招待するかを、ブレインストーミング、KJ法を使った交流活動を通して、自分たちで考えさせる。友だちのよいところを認め合いながら、自分たちで決めたという達成感を持たせる。

深める段階では、自分たちで考えたプログラムをもとに、秋の実りを使った出し物を考える。なお、自分たちが楽しむだけでなく、お客さんを楽しませるという相手意識を育てていく。そのために、それぞれに担当の仕事を持たせ、主体性を育てつつ、達成感や成長の実感を持てる会にしていく。出し物は、教科書（上）p76・77「あきのおもちやずかん」等をもとにしたもので、自分たちで考えさせる。当日は、おいも名人③と一緒に「げんしもち」を作って食べる。自分自身の手で育てたサツマイモを使って、みんなで料理して食べることで、達成感を味わわせる。

深める段階では、捨てずに保存しておいた芋づるを使ったクリスマスリース作りをする。校内に飾ったり、家の玄関に飾ったりした作品を褒めてもらうことを通して、ごみを減らしたり、リサイクル・リユースしたりする意識の基礎を育てる。また、単元全体を通して、「給食を感謝して残さず食べたい」「好き嫌いをなくしたい」といった思いを表現する。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・小呂島には、実は素晴らしい自然や文化などがたくさんあること。

相互性・・・自分の周りには自分にはない知恵や経験を持ったお年寄り・先生・仲間がたくさんおり、みんなで力を合わせれば日々の生活がより豊かになっていくこと。

有限性・・・道端に落ちている葉っぱや木の実、収穫した後の芋づるなども、工夫すれば素敵なおもちゃやかざりとして再利用できること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

コミュニケーションを行う力

イベントを成功させるために、詳しい人に教えてもらったり、友だちと考えを交流させたりしながら、よりよい活動内容を考える力

つながりを尊重する態度

一つの目的に向かって、他の児童・教職員・島民など、担任・副任以外の様々な人たちとつながっていくことができる力。

進んで参加する態度

自分が「楽しむ」だけでなく、参加してくれた人々を「楽しませる」という、主体的な関わり方をする力。

・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代間の公正

身近な大人やお年寄りの知恵や経験を生かして友だちとアイデアを出し合うことで、自分たちだけではできなかった豊かなイベントをつくり上げることができる。

幸福感に敏感になる。幸福感を育てる。

島で採れたものを用いて、みんなで協力して創り出したイベントを開催することで、たくさんの人を楽しませることができる。

・ 達成が期待されるSDGs

4 質の高い教育をみんなに (4-7)

12 つくる責任・使う責任 (12-5)



4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>1 お芋名人に教えてもらった内容を想起して、ワークシートに書くことができる。</p> <p>2 教科書を参考に、木の実や落ち葉などを使って楽しいおもちゃを、芋づるを使ってクリスマスリースをつくることができる</p>	<p>1 秋の自然とはどんなものかを考えながら、秋の特徴がよく表れた木の実や落ち葉を探すことができる。</p> <p>2 お芋パーティーのプログラムを、ICTを活用しながらブレインストーミング、KJ法を使った交流活動を通して考えることができる。</p>	<p>1 お客さんを喜ばせるためにはどんなパーティーにしたらよいか、お客さんの立場に立って考えることができる。</p> <p>2 学習を生かして、これからの生活でごみを減らしたり、リサイクル・リユースしたりする意識を持つことができる。</p>

5. 単元の指導計画 (全14時間)

時	学習活動	○ 学習への支援	○評価・考察
2 1	<p>1. 保育所との合同の芋ほり集会をする。</p> <p>2. お芋の食べ方について話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やきいもにして食べよう ・カレーやシチューにいれたらおいしそう ・木の実や落ち葉でつくったおもちゃで遊ぶのも楽しそう ・みんなで食べたり遊んだりしたいな! 	<p>○ 芋ほりと同時期に、校庭や裏庭にあるソテツの実、ガマズミ、ススキ、紅葉した落ち葉、松ぼっくりなど、身近にある秋の実りに気付かせておく。</p> <p>○ 子ども達と一緒に木の実や落ち葉拾いなどの体験活動をする。サツマイモを含めたこれらの秋の実りを使って何かをしたいという意欲を持た</p>	<p>イ① (思判表)</p>

1	7. お世話になった人たちを招待して、 おいもパーティーをしよう！	○	ウ① (主体的)
1	8. 芋づるリースや、食べられない芋で芋 版を作る ・芋づるはごみじゃないだね ・食べられない芋をとっておいてよかつた	○ 捨てずに保存しておいた芋づるや、 傷んで食べられない芋を活用し、作 品を褒めてもらうことを通して、ご みを減らしたり、リサイクル・リユ ースしたりする意識を育む。	ア② (知・技)
1	・作品を○○先生に褒められたよ！ 9. 活動のふりかえりをする。 ・おいも名人が作った給食なので、感謝 して残さず食べたい ・「げんしもち」を、みんなにも教えて あげたい。 ・いらぬものを使ったおもちゃ、ほか にもできそうだな。		ウ② (主体的)

5. 成果と課題

1年生の生活科において、地域の自然を題材としたESDの授業実践を行った。目指す姿としていた「自己や小呂島を誇りに思う子ども」と「ともに学び未来を創り出す子ども」の育成について、事後アンケートの内容や子ども達の様子から、以下の成果が見られた。

(成果)

・地域の自然への関心の高まり:授業を通して、子ども達はこれまで当たり前と思っていた小呂島の自然を見直し、その美しさや面白さに気づくことができた。学校の周辺の自然の観察や採集等活動を通して、木の実や草花などの名前を覚えたり、夏にはなかった木の実や色鮮やかな木の葉を通して季節の変化に気づいたりするなど、自然への関心が高まった。

・環境を大切にすることの意識の芽生え:芋づるや食べられない芋を使った作品作りを通して、環境を大切にすることの重要性を理解し始めましたように感じる。また、自分たちの行動が自然に影響を与えることを意識し、工作などの際にむやみにゴミを出さない等、自分なりに環境を守ろうとする意識の芽生えが見られるようになった。

・話し合い活動の活発化:活動の計画や振り返りの場面で、子ども達は自分の意見を発表するようになっていった。また、友達の意見を聞き、参加してくれた人を楽しませる「おいもパーティー」をつくり上げていく過程で、他社意識も高まった。

・「おいもめいじん」として、それぞれの分野に詳しい多様な人々に出会うことにより、一つひとつの活動により意欲的に取り組むことができた。また、その過程で今後の本校におけるESDの中心の一つにもなりうる郷土料理、「げんちもち」に出会うことができた。

(課題)

・活動場所や時間:今回は学校の周辺の自然を利用したが、地域の特性上活動場所が限られており、多様な自然体験を提供することが難しいと感じた。今後は漁師町であることを生かし、海の自然を通して季節の自然を感じる活動をしていくことも、解決策のひとつとして検討したい。

・評価方法:アンケートを通して振り返りを行った。発達段階上、どれだけ客観的に児童が振り返ることができているか。また、アンケートでは見えにくい部分の成長もあり、難しさを感じた。ア

(資料1) おいもパーティープログラム

おいもパーティーその2 (3校時)

～プログラム～

楽しい (ひなた)

1. はじめのことば (がく)

「いまから、おいもパーティーその2を はじめます。」

2. あそびかたのせつめい (そうすけ)

「ぼくたちは、せいかつのがくしゅうで、おもちゃをつくりました。ぼくたちがつくったおもちゃで、たのしいおみせをします。ぜひ、あそんでください。」

(「命から、あそびかたのせつめいをします」)

①【 】 (ひなた)

②【まつぼっくりけんだま】 (そうすけ)

③【マラカスくじ】 (がく)

3. おみせタイム

「それでは、おみせタイムです。じかんは15分です。じゆうに、すきなおみせであそんでください。それでは、よい、はじめ！」

4. おわりのことば

「それでは、ゲームをやめて、すわってください」

「きょうは、きてくれたみなさんに、おみやげがあります。」

(3人でおもちゃをくばる)

「おわりのことば、がくさん、おねがいます」

「みなさん、たのしかったですか？」

これで、おいもパーティーその2を おわります。」

アンケートの内容・方法について改善していく必要がある。

今後は、これらの課題を踏まえ、より効果的な ESD の授業実践を目指活動を。今回は地域の方々との連携を深める活動も取り入れたことが、大いに効果的であったと感じる。非常に特色のある地域なので、さらなる地域の方々との連携により、本校にしかできない面白い ESD 学習を推進していき、そのような可能性を感じた実践であった。

本実践を継続し、子ども達が自分たちで話し合いながら活動し、その過程で地域の方々とのさらなる交流をしていくことで、は「自己や小呂島を誇りに思う子ども」「ともに学び未来を創り出す子ども」の育成に大きく貢献していくことができるであろう。

児童アンケートの結果 ※()内は補筆

☆ みんなではなしあって おいもパーティーですることや どんなおみせにするかをかながえたりするのは、たのしかったですか

とてもたのしかった	たのしかった	あんまりたのしくなかった	たのしくなかった
1	2	0	0

(自由記述)

- ・ヨットカー (のお店) をきめたのがたのしかった
- ・ (お店を自分で) きめるのが たのしかった
- ・おみせでやることを かんがえることがたのしかった

☆ おみせをだして おきゃくさんをたのしませるのは、たのしかったですか。

とてもたのしかった	たのしかった	あんまりたのしくなかった	たのしくなかった
2	1	0	0

(自由記述)

- ・おきゃくさんが「やった」というのが とてもうれしかった
- ・ちょっときんちょうしたけど たのしかった
- ・いらっしゃいと大きなこえでいったから (楽しかった)

☆ いろんな木のみやはっぱ、さつまいもなど、おろのしまのしぜんをつかったがくしゅうをしたかんそうをかきましょう。

- ・ (小呂島には) なんてあかい 木のみがあるんですか?
- ・しらない木のみがいっぱいあった
- ・しらない みが たくさんあった